

ボリビア国コロニアオキナワへ派遣の県教員 海外協力隊員として沖縄県庁にて出発前表敬

この度、沖縄県教育庁とJICA沖縄の連携による「JICA海外協力隊現職教員派遣に係る覚書」に基づきJICA海外協力隊として出発する1名が、沖縄県庁にて出発前表敬を行います。派遣されるにあたっての決意や抱負、海外活動に挑戦するに至った思いなどお話をうかがう機会ですので、メディアの皆さまのご参加・取材をお待ちしております。

記

1. 日 時：2022年7月15日(金) 11:30～11:50
2. 場 所：沖縄県庁 副知事室(対面)
3. プログラム(予定)

時間	内容	担当
11:30-11:31	開会挨拶	司会
11:31-11:36	JICA 沖縄からのご挨拶	JICA 沖縄 所長 倉科 和子
11:36-11:42	出発隊員からの言葉	ボリビア派遣 隊員 稲嶺 萌恵
11:42-11:49	副知事からのご挨拶	沖縄県 副知事 照屋 義実
11:49-11:50	閉会挨拶	司会

4. 申込方法：参加希望の方は、7月14日(木)までに、①氏名 ②所属先 ③部署・役職 ④メールアドレス を記載のうえ、JICA 沖縄代表アドレス (oictpp@jica.go.jp)宛てにお申込みください。

5. 派遣される方

隊員区分	氏名	職種	派遣国	派遣先	居住地・勤務地	派遣期間
日系社会青年海外協力隊	稲嶺 萌恵 <small>いなさね もえ</small>	小学校教育	ボリビア	オキナワ日本 ボリビア協会	沖縄市	2022年7月20日～ 2024年3月20日

※この県庁表敬のほか、出身自治体表敬として、7月13日に沖縄市 桑江市長への表敬を予定している。

6. 参考情報

1. JICA海外協力隊事業の目的とあゆみ

JICAは、国際協力の志を持った方々を開発途上国に派遣し、現地の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで開発途上国の抱える課題の改善・解決に貢献することを目的にボランティア事業を実施しています。

(1) 3つの目的

開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
異文化社会における相互理解の深化と共生
ボランティア経験の社会還元

(2) 1965年に日本青年海外協力隊として発足。初の協力隊員派遣国はラオス。

これまで世界98カ国に55,000人以上の隊員を幅広い分野に派遣しています。

2. 復帰前に派遣された沖縄出身隊員とこれまでの海外協力隊の派遣実績

沖縄県からは本土復帰前の1968年に初めて派遣されました。これまでに累計609名の派遣実績があり、現在も6名の隊員が開発途上国の課題解決のために励んでいます。

3. 現職教員特別参加制度とは

本制度は、公立学校、国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校および学校設置会社が設置する学校の教員が身分を保持したまま青年海外協力隊、シニア海外協力隊、日系社会青年海外協力隊、日系社会シニア海外協力隊へ参加するための制度で、毎年春募集のみに募集します。派遣期間と訓練をあわせて2年間（派遣前訓練70日間程度、派遣期間約1年9ヶ月）です。

学校長の推薦を得たうえで、教育委員会／国立大学法人／公立大学法人／各学校法人／学校設置会社等から文部科学省経由で応募する点が一般の応募とは異なります。応募手続きが一般応募と異なっていますので、ご注意ください。2008年度より本制度が現職教員特別参加制度（日系）として日系社会青年海外協力隊にも適用されるようになりました。この制度は、中南米諸国に居住する日系人を支援するだけでなく、帰国後に学校教育の現場において「多文化共生」の観点から日本に居住する日系人子女を支援することを目指しています。

4. これまでの「オキナワ日本ポリビア協会」への現職教員派遣について

(1) 稲嶺隊員が4代目の派遣

(2) 活動内容は：オキナワ日系移住地の幼稚園から中学校3年生の児童・生徒を対象に、体育や三線、日本語の授業への協力やクラブ活動やスポーツ大会等学校行事への支援をする予定です。また、第一移住地と第二・三移住地を繋ぐ教育の側面支援や教育の質の向上のためのワークショップなども行う予定です。

関連リンク：

- JICA海外協力隊事業の歩み
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/history/index.html>
- 青年海外協力隊50年の歩み（動画）
<https://youtu.be/Q7MJzvKDhs8>

本件に関するお申込み・お問い合わせ先

独立行政法人国際協力機構(JICA)沖縄センター 市民参加協力課 担当：高橋、大城
TEL 098-876-6000 E-mail: oictpp@jica.go.jp